

## ○第11回熊野川の総合的な治水対策協議会 議事要旨

開催日時：平成28年5月18日（水）11:00～12:00

開催場所：田辺市本宮行政局 3F 大会議室

出席者：近畿地方整備局河川部長、近畿中国森林管理局治山技術専門官、紀南河川国道事務所長、紀の川ダム統合管理事務所長、紀伊山地砂防事務所長、三重県県土整備部長（代理）、奈良県県土マネジメント部長（代理）、和歌山県県土整備部長（代理）、天川村長（代理）、五條市長（代理）、野迫川村長（代理）、十津川村長（代理）、田辺市長（代理）、新宮市長、紀宝町長、上北山村長（代理）、下北山村長（代理）、北山村長、関西電力(株)水力事業本部副事業本部長、電源開発(株)西日本支店長

### 議事要旨

#### 1)各機関の取り組み状況の報告

##### (1) 堆積土砂の対応状況について

- ・近畿地方整備局河川部、紀南河川国道事務所、奈良県、和歌山県、三重県、紀の川ダム統合管理事務所、関西電力(株)水力事業本部、電源開発(株)西日本支店より資料1について資料1-1より順に説明。

##### (2) 治山・砂防の取り組みについて

- ・近畿中国森林管理局、奈良県、和歌山県、三重県より資料2について資料2-1より順に説明。

##### (3) 河道閉塞の対応状況について

- ・紀伊山地砂防事務所より資料3について説明。

##### (4) ダムの運用改善及び情報提供の対応状況について

- ・電源開発(株)西日本支店、紀の川ダム統合管理事務所より資料4について資料4-1より順に説明。

##### (5) 濁水長期化軽減対策について

- ・電源開発(株)西日本支店、近畿地方整備局河川部より資料5について資料5-1から順に説明。

## 2) 質疑応答・意見交換

→平成 27 年台風 11 号では、国道 168 号において、これまでほとんど浸水しなかったところが浸水した。そういったところの堆積土砂撤去をお願いしたい。(新宮市長)

→雨が降らなくても濁度が上がっている場合がある。工事も原因の一つかもしれない。熊野川濁水対策技術検討会の場で、河道内堆積物撤去工事によって濁水を発生させないような工夫が必要とご指摘いただいているので、工事にあたっては、国も含めた各機関とも濁水をできるだけ出さないようにしていただくようお願いする。(近畿地方整備局 河川部長)

→風屋ダムにおいて 1 年前に濁水防止フェンスを設置されているところだが、依然として濁水低減が見た目にも改善されたとは言いがたい。下流域に住むものとして一刻も早い解消を望む。さらに、近年、外国人観光客が増える中、世界遺産の川として非常に恥ずかしい思いをしている。また、南桧杖地点濁水計データでは、行楽シーズン 7 月～9 月において前年より悪い結果がでている。冬場についても改善が図られていない結果がでている。については、濁水対策をより効果的なものとしていただきたいので次のとおり要望する。

### 1 つ目、先進事例の調査について

濁水軽減対策には濁水早期排出が有効であると考えている。他の先進事例も十分調査を行い、効果が見込まれるものは、是非とりくみに着手して頂きたい。一例として「宮崎県一ツ瀬川水系の一ツ瀬ダムのコンジットゲート改造」「杉安ダムの濁水バイパス」などの抜本的な濁水対策に取り組んでいる事例を是非参考としていただきたい。

### 2 つ目、発電運用の見直しについて

十津川第二発電所での 1/2 運転、1/4 運転の実施時においても、下流域では十津川第二発電所からの放流水を起因とする濁りが常態化しており、まだまだ改善されていない状況にある。したがって、十津川第二発電所放水口において、濁度 40 度を超える大変な濁りが計測される場合には、発電停止を実施するなど更なる発電運用の見直しを検討いただきたい。

### 最後に治水対策について

平成 23 年台風 12 号による大水害においては、多くの尊い命が失われた。その後も平成 27 年台風 11 号時を始め、度重なる浸水被害が繰り返されている。このことを教訓とし、人命最優先の観点に立って、池原並びに風屋の両ダムにおいて更なる空き容量を確保し、ピーク時の放流量を低減させるとともに、ダム間の連携によるダム放流量の低減など、治水対策の強化を図って頂きたい。

以上、大きく3点についてよろしくお願ひしたい。(新宮市長)

→南桧杖地点の7月～9月の濁度が落ちていないことは整備局でも同じ事を確認している。このうち、7月については大きな降雨があったことが影響しているのかもしれないが、9月についてはそんなに大きな降雨がないのに濁度があがっている。モニタリングを始めて1年なので、因果関係の分析までは至っていないが、問題意識としては同じものを持っている。(近畿地方整備局 河川部長)

→熊野川濁水対策技術検討会において、先進事例をふまえた上で最も効果的な対策を選定され、現在の対策を行っていることを認識。今後も情報収集を進め、効果的なものがあれば、検討を進めていきたい。

発電運用の見直しについて、まずは、当協議会で今まで議論してきた対策を着実に実施し、効果の検証をしていきたい。平成27年7月1日から平成28年4月30日の期間において、ゲート放流なしで発電を実施している147日の内、十津川第二発電所放水口濁度が40度を超えた日は37日。出水対応等による貯水位運用のため発電停止ができない日は34日。残り3日については、1/4運転を実施。この3日間の放水口の平均濁度は60度。この3日間の南桧杖濁度は平均で13度。この期間の実績によると、発電停止を制約として加える必要はないと考えている。治水対策について、現在、降雨流量予測の高度化に着手したところである。降雨流量予測の高度化により予測精度が向上すれば、確保した空き容量を有効に使い放流量を低減できると考えられる。(電源開発(株)西日本支店長)

→濁水早期排出が終わった後も、なかなか濁りがとれない。見た目はいつも濁っている。40度以上の高濁度のときには、発電停止などの対策を改めてお願ひしたい。(新宮市長)

→濁水早期排出中は高濁度の水が流れていると思われるが、濁水早期排出が終わった後は、濁度は落ちているということをご理解いただきたい。(電源開発(株)西日本支店長)

→南桧杖地点で濁度20度以上を計測した日数をみると、状況が改善されているとは思えない。下流の状況をとにかく改善していただきたい。(新宮市長)

→平成27年6月に十津川第1、第2発電所の水利使用許可を行った。その際、各府県から出てきていた濁水対策に関する附帯意見について、電源開発(株)本社取締役へお伝えしたところ、「これまでよりも1歩2歩踏み込んで進めてきており、今後も前に進めていきたい」と言ってくれた。その際に「1歩2歩と言わずにそれ以上

の対応をとられることを期待する」と伝えた。それに対して取締役は「企業理念に基づきしっかりとやっていきたいと考えている」と言って頂いた。それを踏まえてきちんと対応していただけたらと思う。また、そのときもう 1 つ申し上げたのは、「地元自治体に対して丁寧な説明をお願いしたい」ということ。それに対して取締役は「丁寧な説明を心がけていく。また、治水への対策については、確かに地元自治体へ説明するという観点で不足していたので、しっかり理解して頂けるよう説明していきたい」と言って頂いた。このことから、本協議会だけではなく、電源開発(株)単独でも説明いただいていると考えているが、それをしっかりとこれからも続けていただきたい。また、仮に説明が不十分なのであれば、個別にしっかりと対応いただきたい。

また、新宮市からの要望についても、個別に説明に行って頂きたい。必要があるのであれば、その場に国交省も伺う。(近畿地方整備局 河川部長)

→突然の要望で申し訳なかった。何とか前向きにご検討いただきたい。(新宮市長)

→しっかりと対応していきたいと考えている。(電源開発(株) 西日本支店長)

→本日、この場所に来るときに下流から上ってきたが、北山川合流点より上流に入ってくると、非常に心が痛くつらい思いだった。南桧杖地点の濁度が 20 度以下になっているからこれで良いという風にとられがちなのがしている。対策が完成すれば、平成 23 年度災害以前に戻るものと希望を持っている。濁度 20 度という数字だけで解決できるものではなく、対策にあたっては十分な配慮をお願いしたい。先ほど話のあった濁度 40 度以上のときの発電停止についても、個人的にはできると考える。検討をお願いしたい。

なお、工事に伴い濁水が発生している可能性はあると思うので、これについては是非とも関係機関の協力をお願いしたい。

また、先日、地元住民と話をする機会があった。その際にダムのサイレン吹鳴が聞こえにくいとの声があった。配慮をお願いしたい。(紀宝町長)

→南桧杖地点濁度の話は、電源開発(株)としても濁度 20 度をクリアしているから良いと考えている訳ではない。ますます濁度の低減がはかれるように対応していきたい。また、情報伝達の話は、これまでも要望を踏まえつつ対応してきたところなので、本日お話し頂いた件についても、今後検討していきたい。(電源開発(株) 西日本支店長)

→1年前に濁水対策についてお示したところであるが、データが1年分しかないの  
で、妥当性の確認や分析ができていない。国交省として、これから掘り下げてい  
きたい。今年度の出水期については二津野ダムの濁水フェンスが運用開始してい  
る。1つのポイントとなる。今年度の出水期の状況や降雨後の状況を分析し、秋に状  
況を報告したい。その時には、もう少し掘り下げた報告ができるように準備を進  
めていきたい。(近畿地方整備局 河川部長)

以上